ジェンダーセンターでの仕事を通して
ディヤナ・テプシック（ボスニア・ヘルツエゴビナ）

ジェンダー・センター（スルプスカ共和国政府男女平等センター）での仕事を通して、私の国の男女の役割や立場についての現状を私の視点からお伝えする機会をいただきました。ジェンダー法を制定する機構に関わる者として、一方ではこの国の国民として私の考えを述べさせていただきます。

ボスニア・ヘルツェゴビナは現在も紛争後の過渡期にあり、男女平等は未だ満足のゆくレベルに達していません。紛争終結後、ボスニア・ヘルツェゴビナは二つの構成体に分割されました（スルプスカ共和国、および、ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦)。ジェンダー法制定機構は、国および事業体レベルで設立され（2001 年)、ジェンダー平等法が 2003 年に制定されました。ジェンダー法制定機構（政府のジェンダーセンター）は、あらゆる政府機関、地方や外国の NGO、メディア、国際組織と連携して運営されています。

ボスニア・ヘルツェゴビナは未だ家父長制度が強く残る伝統社会であり、男性、女性に対する偏見やステレオタイプが多く見られます。これらが生活のあらゆる面で男女平等の考え方を取り入れる際の障壁であり、解決しなくてはならないことです。

理論的また法的には、女性は男性と同等の権利を持ちます。たとえば、土地や財産の取得に際して女性に対する法的差別は存在しません。しかし、慣習として女性よりも男性に有利であるのが一般的です。

法律の定めは存在しますが、実際には日々の生活で男女の役割分担や差別が残っており、女性の力や影響力は劣ります。女性であるというだけで生活の多くの点で差別を受け、男性と同じ機会を持てないのです。女性は未だに公の場や個人の生活でも差別の対象となっており、98%のケースで家庭内暴力の被害者です。中には経済的、政治的、社会的、文化的な権利すら保障されていない女性もいます。伝統的でステレオタイプの性別役割があるせいで、ボスニア・ヘルツェゴビナの男女の生活はより困難なものになっています。社会は女性に子供や高齢者の世話だけでなく、家事の全ても期待しています。たとえ女性が仕事を持っていたとしても、伝統的な役割として男性は仕事だけをすればよく、子供や高齢者の世話や家事は期待されていません。

しかし、農村部の女性達が最も影響を受け、難しい状況にあると言わなければなりません。彼女達が毎日いかに家族、地域、社会全体のために尽くしていようとも、その問題は社会からは見えません。女性達は男性と同様の肉体労働をこなしています。一日中畑に出て、家畜の世話をし、家族や動物に食事をさせ、一方でもちろん家族全員の面倒を見ます。女性は自分名義の土地や財産を持つことはできません。銀行からお金を借りるには担保としての資産が必要になりますので、資金を調達することもできません。そのため、小さな事業を始めたり教育に投資したりする機会もありません。これに対してジェンダー・セン

ター（スルプスカ共和国政府男女平等センター）は農山漁村の女性のための国際デーである 2009 年 10 月 15 日に「農村部女性に平等を」というキャンペーンを開始しました。この運動の主な目的は農村部の女性が担う非常に重要な役割に対する認識を高めることと、彼女達の問題や立場を明らかにすることです。

農村部の女性達のことをはっきりと公に知ってもらうために様々な活動やイベントが企画されました。私達は、彼女達の大変な仕事、日々の生活、社会での立場を報道するようメディアに呼びかけました。また、努力して小さな事業を立ち上げたり NGO を設立したりした女性達の素晴らしい事例も伝え、農村部女性が成功事例から学べるようにしました。農村部女性や彼女達の問題の分析や研究もこのキャンペーンの一部でしたが、公に公開されるのは初めての試みでした。さらに、「農村部女性の状況改善のためのアクションプラン」が 2010 年末までに採択、実行に移されます。この施策によって彼女達の立場や生活の質が向上することでしょう。

「農村部女性に平等を」
キャンペーンポスター

終わりに、私は前向きな言葉でこのレポートを締めくくりたいと思います。特に過去 20 年間において様ざまな分野で改善がみられます。たとえば、私の個人的な例を申し上げます。私の祖母、母、そして私自身の状況を見てみますと、それぞれの生活において教育、労働市場、求職や資金の利用等色々な機会で変化が見られるようになってきました。ですから、進展は目に見えてあるのですが未だやるべきことは多いと思います。生活のあらゆる面で女性の立場を向上させることは重要ですが、このプロセスにパートナーとして男性も参加させる必要があります。男女平等を実現するということは、国全体で社会、経済、文化を発展させ、社会全体のために生活の質を向上させることだからです。平等で、差別のない、健康な民主主義社会を築くためには私達皆が力を合わせなければなりません。